

平成30年11月12日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様

会派名 真政クラブ

代表者名 塚本秋雄

飯綱町議会視察研修・第80回全国都市問題会議 報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 平成30年10月10日（水）～10月12日（金）

2 視察先 長野県飯綱町役場
長野県上水内郡飯綱町大字牟礼2795-1
会 場 シティーホールプラザ アオーレ長岡
新潟県長岡市大手通1-4-10

3 出席人数及び氏名

6 名	塚 本 秋 雄	櫻 井 伸 賢
	大 野 慎 治	鈴 木 麻 住
	堀 巖	宮 川 隆

4 復命事項

別紙のとおり

◎飯綱町議会視察研修の報告

10月10日（水）10：00～12：00

清水みつる議長の挨拶ではじまり、最後まで説明を受け、質疑応答を行った。飯綱町は、平成17年10月に二つの村が合併して13年目になる。産業は、米などの農村地帯であり、リンゴは全国の1%強ある。

1、議会改革の到達点と今後の課題については、

議会に対する町民の評価は、平成20年度の不特定多数のアンケートでは、75%が満足していなかった。平成28年度では議会にかかわった方へのアンケートになるが、75%から70%が評価してくれていた。

（※アンケートの取り方が違うが）

平成29年10月の議員選挙で定員15人の内5人が新人となった。そこで新議員に対して、議会の中身がわかっていないので「学ぶ機会」をしっかりと行うとして、議長や局長から5回にわたり一般質問の仕方まで、「議員必携」を参考に教えた。また他の研修センター機関でも勉強してもらっている。

※事前に岩倉市議会に送られた資料「議会力を向上させ町長と切磋琢磨する議会へ～学ぶ議会と自由討議が推進力～」により説明を受けました。

2、議会改革の動機は、

リゾート開発（スキー場）の借金8億円問題があつて、この解決なくして合併はできない。でも合併してから倒産した。その時住民から議会のチェック機能をちゃんと果たしたかと問われた。その反省の上に立って、平成21年1月から勉強会を30回やった。ガバナンスが、議員にも必携であると認識する。

3、町民が求める6項目の集約と町民に信頼される8項目宣言を行った。

平成24年9月に「議会基本条例」を制定。本当は自治基本条例があればよいかも。現在900市町で制定されている。そのうち100から150が機能している。つくるのが目的ではない。つくり方として、いいところを見てつくと挫折する。飯綱町議会は、自分たちが実践したことをまとめる形で、4年間かけてつくった。他所にない基本条例である。

4、特に年間計画を作成し、9項目の自己評価を含む議会白書をつくっている。

区や組を対象に出前講座として3～4人で実施している。平成30年は7回100名集まっている。内容は、新庁舎建設や政務活動費や議会のICTなど。

5、取組と成果としては、

会議規則の中で議長の許可したものとして、質問回数を3回から無制限にした。一問一答方式の導入と反問権を認めた。議案の議決修正6回やっている。首長に対して好き嫌いでやっていない。

6、政策サポーター制度を新設した。

議員と話ができることにより、議員を応援してくれる人をつくる。議決するだけとか、事業の流れをチェックするだけでは住民から評価されない。政策立案機能が求められている。実践する中で議員のいないところは知恵を借りることにした。1回の参加で3000円。7～10回開催してとりまとめ成案される。平成22年第1回、平成25年第2回、平成27年第3回と回を重ね、集落で「活性委員会」を立ち上げ、高齢者の新しい暮らし方として「健康宣言」をしてもった。

7、開かれた議会として、

休日議会、夜間議会、中学生議会をやった。

町民と議会の懇談会をやった。議会の話はいい、俺たちの話を聞いてやってくれとのこととなった。

8、議会だよりモニターはぜひやってください。

難しくないから。読まないといけない。読めば応援してくれる。応援してくれる人を増やすと議会が変わる。文書は必ず議員が手渡しで渡すこと。議員が回収に行く事である。

9、議会を活発化させるには一番は事務局にある。

一番優秀な人を連れてくること。

議長に任命権があるからできる。やる気のある人を普段から目をつけておく。議会基本条例の目指す議会像は、町長と切磋琢磨する。追認機関では駄目である。条例策定では①実践を持った②使えるもの③表現できるもの④適時改定するとした。

(条例を第一法規に見てもらった)

研修の結果：議会改革の内容では、住民参加と首長に妥協しない議会であり、大切なことは学ぶ議会であり、議員の自由討議を重視し、首長と切磋琢磨する議会である。そこから本来の役割を果たす地方議会となったことを具体的に学んだ。

資料：①平成30年度飯綱町議会の概要

②飯綱町議会「信州飯綱町へようこそ」（説明資料）

③議会傍聴にあたってのお願い

同席者：飯綱町役場議会事務局・監査委員事務局 事務局長 高橋吉人

◎ 第80回全国都市問題会議

1日目：10月11日（木） 9：30～17：00

開会挨拶では、立谷秀清全国市長会会長（相馬市長）からは、この会議はその時代、時代の抱える諸問題を意見交換しながら、あるべき姿を探っていくこと、求めていくことである。東日本大震災の被災地としての福島県から、しっかりと行政基盤のもと、首長同志の災害支援、助け合いシステムをつくっていききたい。

磯田達伸長岡市長からは、戊辰戦争から150年のこの地、「米百俵の教育精神」がある長岡で、テーマ「市民協働による公共の拠点づくり」は各自治体の共通の課題であり、お互い考察し、議論を深めることであるとの挨拶が述べられた。新潟県知事の代理からは、時勢を踏まえた行政課題としては、人口減少、高齢化社会の到来である。新しい時代に対応した、都市づくりの考え方、方向性を示す。核となる拠点づくりは重要な拠点となる。」とのメッセージが送られた。

【基調講演】「地方分権へのまなざし」

本郷和人 東京大学史料編纂所教授

我が日本は、一つの言語の大和民族が古代から形成されていた。

古代には輝いた歴史観がある。歴史的事件は、その歴史時代に結びついている。今の価値観で判断してはいけない。ある歴史学者は言っている。人間の歴史を知りたいなら、日本の歴史を知るべきである。右肩上がりのエビデンスを裏づけるものは人口である。西暦600年は600万人、1600年は1,200万人（この時代は戦争、飢え、病気があった）。江戸時代は平和な時代1700年は2,500万人いた。

米と着物の物々交換から鎌倉時代は金が使われた。今の1万円札は20～30円でできる。なぜ、安くできる紙の1万円が通用するのか。それは国家としての信用があるからである。日本は西国中心に開かれた。宗から銅銭が入ってきた。交易は日本海と瀬戸内海が中心であった。経済が回りだした。その後東北地方では金が取れた。北海道の海産物など日本海交易とともに経済が活性化された。

信長と秀吉は大阪城で城をつくった。徳川は江戸に城をつくった。その理由は秀吉が朝鮮出兵し、近い地域は危険である。東北・関東は生産力があつた。土地の豊かさと商業がある。各藩には人材が育つた。日本海流通から太平洋流通となる。明治政府は東京一極集中とした。当時の教授や秀才と呼ばれる人が軍隊に入り太平洋戦争がおきて、日本人300万人亡くなつた。次の改革は、人口が少なくなつた時、明治政府の逆をやる。地方からであり、地方に権限をおろしてやる。

【主報告】「長岡市の市民協働」

磯田達伸 新潟県長岡市長

新潟県第2位の27万人の都市。面積891km²（11市町村合併）。日本一長い信濃川がある。日本海に16km面した海岸線がある。東京から90分でこれる。天然ガスと石油が出た。酒蔵は京都に次いで第2位。戊辰戦争の時、長岡藩の小林虎三郎は見舞いの米百俵を分配せず、学校をつくりて充てた。その後三島億二郎が後を継ぐ。士族と町人の協働「ランプ会」を立ち上げた。市民が主役で行政は黒子である考え方である。まちをきれいにするため、種から育てる花いっぱい運動を始める。行政は市民が集まる場所をつくる。41のコミュニケーションセンターをつくった。子育て支援として地域の保育園で24カ所の子育て支援センターを併設している。また、「子育ての駅」を13つくった。市民協働の場「アオーレ長岡」は長岡駅前であり、情報交換の場となっている。

【一般報告】「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

前葉泰幸 三重県津市長

津市は10市町村が合併した。全国で5番目に多い。人口28万人。面積711km²。まず初めに、市がこうしてやってる、皆さんの自治体でやっている考え方への材料を出す。議会としっかり情報を交換してやっている。大事なことはどんな段階でご意見をいただくかである。

津市の斎場をPFI方式でつくり、一般廃棄物最終処分場をつくった。

市民にきちっと説明した。都合の悪いことが出てくる。不都合な真実を先送りしないで、あぶり出し、丁寧に丁寧に広報した。2期目から市民との対話は進むようになった。市民のアイデア、感覚を受けとめて、すべての情報をオープンにして、市民と一緒に進めていく。そのためにはものすごい議論の積み重ねがある。3つの中学校の統合では、地域での話し合いの結果、小中一貫の義務教育学校をと発想の転換し、地元の人々の意識が変わり新設に向け解決した。質疑のやり取りでは、地元に入った職員が1対1で根回しすると本音が返ってくる。市民が言ったことが、自分のことであれば絶対に声を上げれば何とかなることが感じられると。情報は出し続けることなどでした。

【一般報告】「場所の時代」

隈 研吾 建築家・東京大学教授

世界は同じ方向を向いて変わっている。硬いものから柔らかいものへ。コミュニティとしてどうしていくかが問われている。モータリゼーションの時代は外に出ていく。まちの真ん中がにぎわうのがこれからのまち。コンパクトシティ、歩けるまちである。コンペの要項に遊びをもって広場をつくとあった。雪国なので家庭では土間がつくられている。どま（DOMA）のある市役所が浮かぶ。木のすのこでデザインし、木漏れ日のある効果を出した。テラスの椅子は、盗まれる長椅子でなく、場所の暖かったかみを出し、一人になれる椅子として、友達が来たらの座れる椅子にした。議場はガラス張りでコンサートホールとして使う。

コミュニティづくりとしての公共施設は「場所の時代」である。市民と親しくなる。地域性を生かして市民と一緒にタグを組んでやる。土間だから普段着で来れる。

長岡藩の歴史にはお城に民を呼び込んでお酒が飲まれたそうだ。

中心市街地の活性化は何か？

市民と対話した結果「駅前がさびれているとさびしい」「賑わいをまもってほしい」と聞かされた。それは商業だけでなく、市民の心の問題、誇りの問題がある。場所は力からである。このことは大事である話であった。

人が動いたとき心はどうか？

人はご縁がつくられる。建物を分断するより、縁側をつくる。過去の中にヒントがある。ルーツがある。

この仕事には物語がいる。みんなの日々。みんなの街。みんな生きる所である。

2日目 10月12日（金） 9：30～12：00

【パネルディスカッション】「市民協働による公共の拠点づくり」

コーディネーター：牛山久仁彦 明治大学教授

市民自治、市民デモクラシー、地域経済のためには、しっかりと人口減少社会に向き合って、地域の担い手づくりをする。どういった協働の施策をすすめていくのか問われている。公共の場づくり、拠点を活動する団体の在り方について、考えていくことが重要である。

楠瀬耕作高知県須崎市長からは、協働とは、行政がやることを住民に押し付けることでないの？とよく言われる。平成2年から人口自然減になっている。もうすぐ高齢化率40%になる。シャッター通り以下になっている。2040年の

消滅都市可能性あるまちお言われた。「須崎未来塾」で人材を育てている。

埼玉県松本武洋埼玉県和光市長からは、面積11.04km²、人口82,000人のまちであるが、昼間は30,000人が出ていく。高齢化率16.9%、子どもも同数の人口である。「健康長寿のまち」を掲げている。毎年500人増加しているが、自治会の組織率は40%前後である。活動拠点として、NPOがやる子育ての拠点カフェがあり、パパ組としてバーベキューなど行っている。みんな核家族化で介護状態になっても同じ。1500戸の団地に相談や高齢者と遊ぶ多世代共生の健康相談センターがある。和光市モデルと言われる「高齢者の元気な街」をめざしている。

奥山千鶴子NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長からは、標準家庭が少なく、子供の数が一人が多い。男性の初婚は30歳越え、女性も30歳越えである。意識の变革はむつかしい。戸惑いの中での子育ての現状である。保健師とのつながりによる見守り。いろいろな人達の関わりの中で子育てにかかわる。横浜市では議員提案による「協働推進条例」が策定されている。一人一人が生き生きと排除されない拠点となる広場をとって取り組んでいる。

羽賀友信長岡市国際交流センター長からは、長岡は「市民協働条例」を制定し、市民が主役のまちづくりを目指している。教育第一主義である。戊辰戦争で街が焼かれた。山本五十六の出身地であり、その精神は文武両道、質実剛健、常在戦場であり、語り伝えられている。進めるにあたってファシリテーターが必要である。地域の課題を自ら解決することが基本で、復興支援者としてファシリテーターが入った。一人一人の意見が柱に取り入れられている。「お金をください」から「私たちはこうしたい」に変わった。復旧と復興は違う。災いを福にもどす。地域の仕組みの主体になる。まちなかキャンパス、まちなかカフェ、大学連携など市民研究所を立ち上げた。若者の20年後のことを考える。留学生が多い。自由に使える空間が大切であり、災害をバネにしてやってきた。

行政は用があるから来る。用がなくても来る。コミュニケーションが始まる。

「アオーレ長岡」の年間維持費は5億円かかるが、ここは集う、交わる、共に育む、人材育成、共に生み出していく所である。

伊藤香織東京理科大学教授からは、都市に対する市民の誇り、心意気の「シビックプライド」研究会の仲間と伝える方のデザインを考えている。イノベーションの良いところ、アイデンティティを大切に、自分の存在の意義、そう思えるようになっていく。受け入れて任せていくことである。

会議テーマは：市民活動の自由・自発性をもってして、行政活動の公平性などにより、お互いの特徴を生かした市民協働の取り組みの会議であった。

いかに市民と行政の両者が協力して魅力的なまちづくりを進めていくのである。

新潟県長岡市河合継之助記念館にて、

「現代人は学べ—何事も改める気持ちで、ものごとをみれば、必ず新しい良い力が湧いてくるものです。よいと思ったことはすぐ実行しましょう。」と学ぶ。

日本の精神とは、越後長岡の常在戦場の精神とは、米百俵の精神、互尊独尊の精神が、越後の長岡にありました。

戊辰戦争、長岡空襲、中越地震からの復活の歴史を学びました。

資料：①会議案内

②参加者名簿

③「市民協働による公共の拠点づくり」冊子